

耶麻農高 農場便り

あ・ぐ・り

Agriculture～農業～

第22号

平成23年3月1日発行

発行責任者
農場長 星久一郎

農場長より

喜多方市主催の講演会に本校生徒が参加したことから始まった、「青いカーネーション」の栽培を予定された2年間も終了し、報告書も提出したところです。新たに3年間の研究計画書を喜多方市を通してサントリー・ホールディングスに提出し、栽培の継続を要望したところ、全国で唯一の国内栽培が継続になる運びとなりました。産業技術科としてはこうした機会をフルに活用して、研究可能な内容は職員で分担して生徒に取り組みせようと考えています。そのことで耶麻農高だけでなく山都町や喜多方市の活性化に少しでも役立ちたいと思います。



作物部門

さる、1月21日に校内研究発表大会が行われ、作物班3年は水稻栽培について、2年は畑作栽培について研究発表を行いました。そばやエゴマ栽培、キリン・ホールディングスから種子提供を受けたジャガイモ、「ジャガキッズレッド」と「ジャガキッズパープル」の栽培にも取り組みました。ジャガキッズはライフコーディネイト科の協力でカラフルな試食品も出来上がり、写真に撮ることで販売の一役となりました。本年はインターネット販売も本格化し、県外や中通り浜通りにも、コシヒカリ精米やそば粉・エゴマ油が販売できました。



畜産部門

本年度の総括をします。

まず、生産部門ですが、肉牛はA5等級が2頭、A4等級2頭、A3等級が1頭という結果でした。売り上げも最高値が約112万円で最安値は約38万円でした。平均は約68万円の結果となりました。

次に子牛の生産ですが、今年度は出荷はなし、人工授精で6月に子牛が生まれる予定です。導入牛については県内で生まれた5頭が入りました。最後にプロジェクト研究ですが、3年生は、「和牛の経営の研究」について、2年生は、「肉質改善の研究」についてそれぞれ発表を行いました。1月に行われた校内発表では、研究半ばでもあるため入賞を逃しましたが、良い経験が出来たと思います。引き続き研究を進めていきたいと思っています。



野菜部門

今年度の野菜部門は、天候にとっても恵まれて夏野菜は元気よく生育してくれました。秋冬野菜は定植をしたときにまったく雨が降らず、困ってしまったこともありましたが、その後はハウス内の葉菜類もふくめて順調に生育し、生徒の実習も充実した内容になりました。販売実習の際には、みなさんに沢山野菜を買って頂き、ありがとうございました。また、来年度も「安全で美味しい野菜」をお届けできるよう実習に励んでいきたいと思っています。

今年もハウス内に電熱線を設置し、3月上旬から来年度の野菜のたねまきを始めます。春には野菜苗の販売を行いますので、購入をご希望される方は、生徒を通して注文頂くか学校までご連絡下さい。なお、保護者懇談会で販売できるよう生徒と一緒に準備を進めていきたいと思っています。



草花部門

本校の草花部門は、花壇用の草花類（パンジー・マリーゴールド・サルビア・ペチュニア・ペゴニアセンパフローレンス）と鉢ものの類（インパチェンス・カンナ・トレニア・シクラメン・プリムラ類・シネリアなど）の栽培を中心に取り組んでいます。

モットーは、「安全・安価で高品質の草花を地域に提供する！」そして、生徒が販売実習に出て消費者の皆様にも愛されることです。それは、販売実習を終えて黄色い手かごを振りながら帰ってくる生徒の姿により判定されます。

卒業を祝うかのように、本校温室は写真のようにプリムラ類・シネリア・パンジー・ランタンキュラスが咲き乱れております。本校の卒業式を皮切りに喜多方市内の小・中学校の卒業式も彩ることになります。



農業クラブより

1月21日に『校内研究発表大会』が行われました。これは、授業の科目『農業科学基礎』の1年生と、『課題研究』の2・3年生が作物・畜産・草花・野菜の4部門を専攻し、研究テーマに沿って1年間調査・研究したデータをパソコンでまとめたものを発表する場です。各部門から代表を1題選んで発表に臨みました。審査員の先生からは「地域に根ざした発表も多く良かった。調査や活動状況の写真などを多く取り入れた発表ができるとうい。といった講評をいただくことが出来ました。

なお、最優秀賞となった3年生野菜班は、来年度行われる県学校農業クラブ連盟主催の意見・研究発表県大会へ本校代表として出場することになります。

